

総務常任委員会

行政視察報告

平成24年1月31日(火) 長野県富士見町

- ① 昭和30年4ヶ村が合併、富士山を眺められることから「富士見町」の名称となる。
- ② 中学校2校が統合し、跡地に都内の太陽熱実験企業の誘致が図れた町である。
- ③ 1年に1企業の誘致を目標としている。
- ④ 1 人事評価制度について
① 町長の政策の一環として人事考課制度の導入が決まり、平成13年度にコンサル会社に委託、14年に人事考課プロジェクト会議を設置して制度の内容を検討、17年度に試行、18年度に本格実施した。現在も運用結果を協議し、問題点の見直しを図りながら現在に至る。極力簡素化を図っている。
- ② 勤勉手当へは平成18年から反映、昇給へは20年から反映させた。
- ③ 評価については、人事院が示す目安に準じ、町で基準を設けて評価し処遇に反映。
- ④ 職員の評価結果を見ると、人事評価の良い点は特になし27%、人材育成に否定的28・6%これ等は評価する係長に問題があり、係内ミーティングがされない結果であり、部下と向かい合えない係長がいるとのことであった。
- ⑤ 係長の指導力が問われることになる。標準より低い職員の下上げに努力を要す。



⑥ 制度の目的は「人づくり」であり、日常の業務の目標管理ができること。処遇の反映は「頑張った人が報われる制度」である。

⑦ (感想) 人事評価については問題が深い、人材育成としては先ず実施して、調整をしながら処遇に反映できればと感じた。

2 行政改革について
① 平成23年3月、第5次行政改革大綱を策定、達

成目標を数値化した。
② 今後は人口減と少子高齢化、税収の落ち込み、職員の意識改革をは

予算決算特別委員会

付託された議案

平成24年度一般会計補正予算(第1号)について審査いたしました。

Q 国庫支出金のうち社会教育費補助金の減額は、

A 荒船風穴の崩落部の復旧工事を計画しましたが、文化庁より石積み専門家を推薦され指導を受けました。その結果、拙速な積み直しを避け、崩落個所の解体調査を実施し、次年度以降に復旧工事をを行うとするものです。

Q 補正財源に財政調整基金を繰り入れるが残高は、

A 基金残高見込みは、9億262万7千円となります。
Q 群馬県震災緊急雇用創

じめ、新たな視点を加えた更なる改革を行う。改革の実効性を検証するため、「行政評価表」を作

成して目標に対する実施状況と進捗状況を年度毎に点検評価し、報告している。

出事業で除染実施が、行われているが、国の特措法での実施は、どうなっているか。

A 西牧地区が終了し、小坂地区の調査中であり除染後の数値は、ほぼ半減しております。特措法の部分は、国の交付決定を待っています。

Q 調査後の結果書を各家庭におけないか。

A 区長には、調査状況をお知らせする予定ですが、個々についても対応に努めます。
Q 特措法の周知方法は、

A 13行政区のうち、6会場場で説明会を実施し、他の地区については、回覧及び戸別チラシを配布いたしました。

Q 備品購入の詳細は、

A 線量調査やホットスポットを見つけること

や、作業後の汚染量を測定のため、GMサーベイメーター3台、調査使用にシンチレーションサーベイメーター2台です。GMサーベイメーターは、数ヶ月かかるのとことです。

Q 公共施設、町道及び民地の調査費は見込んであるか。

A 現在の分かる範囲では、全て見込んであります。
Q 馬山小学校を取り壊す予定だが、跡地利用計画は、

A 地元で跡地利用検討会を立ち上げる会議が開催されたと聞いておりますので、今後検討会の経過を見ながら、考えていきたい。

Q 旧西中学校の跡地利用については、